

吹田市
平和祈念資料室
(吹田市)

23

みゅ〜
ザ・見遊じあむ

狭いスペースに写真や資料がいっぱいの展示室



ミュージアムメモ

▶所在地/〒564-0072吹田市出口町4番1号 市民会館6階 ▶電話/06-6387-2593
▶交通/阪急吹田駅、JR吹田駅から徒歩10分、アサヒビール吹田工場前 ▶入館料/なし ▶開館時間/9時30分~17時 ▶休館日/月曜日、公民の休日、年末年始

吹田市にあるアサヒビル吹田工場前の坂道を少し登ると、吹田市民会館があります。この6階フロアに吹田市平和祈念資料室があります。大阪府下で、平和資料館的な施設があるのは、大阪府・市の「ピースおおさか」、堺市の「平和人権資料館」、そしてこの吹田市ぐらいでしょうか。

「平和」に関する書籍が約3100冊。戦前に発行されたものからマンガ、最近に発行された新刊本までとりそろえています。

平和祈念資料室のとりくみでは、毎月1回、「平和映画会」を行っています。8月は『太陽の子』(灰谷健次郎原作、浦山桐郎監督、1980年作品)、9月は

小さくても中身と資料が充実

吹田市の平和祈念資料室は規模は小さいのですが、中身は詰っています。展示コーナーでは戦前・戦中の市民の生活や軍隊に関するものを中心に、服装や備品、1トン爆弾破片、吹田での空襲被害地図など。ビデオコーナーでは230本のビデオがあります。図書コーナーが充実しています。広

「TOMORROW 明日」(黒木和雄監督、1988年作品)と来年3月までの予定作品が決まっています。市民にも人気があり貴重な企画です。

また、8月の企画展として、「子どもたちの戦争―絵日記でつづる学童疎開」を8月21日から9月2日まで開催することになっています。

「TOKKO-特攻」

太平洋戦争末期、敗戦が濃くなっているも、日本軍は最後の捨て身の作戦として、「特攻」を作りました。「特攻」は特別攻撃のこと、爆弾を搭載した軍用機などを搭乗員ごと敵艦に体当たりさせる戦法でした。亡くなった特攻隊のメンバーは約4000人、撃沈された艦は約40隻といわれています。海外では特攻隊を「カミカゼ」として狂信的な行動の象徴としてとらえられることも多く、とくに「9・11テロ事件」後は自爆テロと結びつけて語られることが多いといえます。

サ・モリモト。日系アメリカ人二世として生まれ、日本人だった叔父が特攻隊の生き残りメンバーだったという異色の経歴を持っています。もうひとりのプロデューサーのリンダ・オークランドはアメリカ人ですが日本で生まれ育ちました。

最近、よくテーマにされる「特攻」ですが、この映画はドキュメンタリーとして、この2人が元特攻隊員4人に取材します。いろんな理由で生還した元特攻隊員の口から、60年以上の時を超えて、その思いが語られます。



異色の日系女性ふたりが作ったドキュメンタリー

このシネマ

ガレージ

大阪の戦跡を歩く

第22歩

大阪城の戦争遺跡③

今もレンガが美しい化学分析場跡の建物



大阪城の京橋口あたりに大阪砲兵工廠の表門跡があります。門柱の横に、明治天皇が砲兵工廠を見に来たときの

こうしょう
砲兵工廠の
化学分析場跡

顕彰碑も建っています。表門を入ってすぐ左側にあるレンガの建物が化学分析場跡です。建物は建築家・置塩章の建築で1919年に完成しました。建物は戦後の一時期、自衛隊が使用していた時期もありましたが、現在は出入りが禁止になっており、建物前の駐車場だけが利用されているようです。また、向い側にある小さなレンガ造りの建物は当時の守衛室といわれています。

(いはら さいかく)、本名は平山藤五(ひらやま とうご)、1642年生まれで1693年9月9日没。江戸時代の浮世草子、人形浄瑠璃作者、俳人。「好色一代男」などの作品があります。15歳のころから文芸の道を歩み始め、家業を他人に任せて、諸国を渡り歩きました。西鶴の名は晩年になって名乗ったもので、時の5代将軍徳川綱吉が娘の鶴姫を溺愛するあまり出した「鶴字法度」(庶民が鶴の字を使用することを禁止)に因んでいます。表題の句は西鶴の辞世の句として知られています。

浮世の月見過しにけり
末二年

井原西鶴

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

あべのせいめい
河内
和泉
三田
三田

あべのせいめい
安倍晴明と阿倍野

河内
和泉
三田
三田

23

(大阪市
阿倍野区)

平安時代の陰陽師として映画や小説でよく知られているのが安倍晴明。安倍晴明の出身地については諸説がありますが、有力なのは大阪市阿倍野区説。いまから千年以上昔、阿倍野に安倍保名(あべのやすな)という男が住んでいました。和泉の信田明神へお参りの帰り、狩りで追われた白狐が逃げてきたので、かくまいました。その後、白狐は女性になって、保名のところへ来て、名前は葛乃葉と名乗りました。ふたりは結婚して阿部神社の近くに住み、生まれた子どもが安倍晴明です。これは有名な「葛乃葉伝説」で、歌舞伎や文楽にもよく取り上げられています。



細い路地を入ったところにひっそりと建っている安倍晴明神社

ている演目です。狐は古来から、霊力を持った動物として崇められており、白狐であった母親を持つという晴明は、当時はまさに謎めいたカリスマ陰陽師だったのでしょ。

阿倍野区にある安倍晴明神社はその安倍晴明の生誕地といわれています。安倍晴明神社に伝わる『安倍晴明宮御社伝書』には、安倍晴明が亡くなったことを惜しんだ上皇が、生誕の地に晴明を祭らせることを晴明の子孫に命じ、亡くなって2年後の寛弘四年(1007年)に完成したのが、安倍晴明神社であると記載されています。

あべの筋から路地を入ってすぐのところ、安倍晴明神社の小さな鳥居があり、伝説のとおり2匹の白い狐に守られていました。生誕地の石碑が建っています。その隣には産湯に使った井戸も。安倍晴明ブームのおかげで、最近はこの小さな神社を訪れる人も多くなりました。

安倍晴明は京の都で大活躍しただけに、京都上京区的一条戻橋に晴明神社があり、こちらの方は観光客でいつもいっぱいです。

(ツバメやスズメのように小さいものには、ハクチョウやコウノトリのような大きな鳥の志など理解できようか、理解できまい) 秦の時代、百姓の陳勝が農作業の休憩のとき仲間「私が将来、立身出世しても、お互いに忘れないでいよう」と言ったが、仲間うちからは「出世などするものか」とバカにされました。そのときの陳勝の言葉が表題の句です。陳勝はその後、秦の帝国が滅亡へと向かう引き金になった反乱を起こします。

あゝ、燕雀いずくんで
鴻鵠の志を知らんや
『史記』